

はじめに

公園坂通りは、かつて、陸前浜街道（現国道356号）や我孫子駅と、手賀沼沿いのハケの道とを結ぶ重要な役割を果たしていました。また、手賀沼沿いの住宅開発や手賀沼ふれあいライン（都市計画道路3・5・15号）の整備など、現在のまちの姿となっても、我孫子駅・国道356号と手賀沼ふれあいラインを結ぶ地区の幹線道路として、我孫子地区の道路ネットワークの役割を果たしています。

しかし、大型の路線バスや通過車両を含め、車の交通量が多い公園坂通りは、我孫子駅入口交差点までの北半分では幅員7.5mに満たない部分があり、人や自転車にとっての安全性・快適性を欠く状況にあります。また、沿線周囲の地形から全線にわたる道路の拡幅も困難な状況にあります。そのため、かつて都市計画道路であった公園坂通りにかわって、南北の交通動線を担うために手賀沼公園・久寺家線（都市計画道路3・4・14号）の手賀沼ふれあいラインまでの延伸が計画され、事業認可を受けました。

手賀沼公園・久寺家線の供用開始後には、公園坂通りは人を中心とした質の高い道路として整備することが期待されています。

現在、手賀沼公園・久寺家線の沿道の一部が整備される状況になりました。今後、用地買収が進み、全線整備の見通しがつく段階で、公園坂通りの整備に向けた具体的な計画づくりを行うこととなります。今回の調査検討は、その計画づくりに向けて、現況と課題の整理と整備の方向性や視点をとりまとめることを目的としています。

本報告書では、第三次総合計画などにおける公園坂通りの位置づけをふまえ、我孫子の顔にふさわしい、安全で魅力ある整備イメージの検討を主眼に、道路そのものの整備の視点と楽しく魅力ある空間を形成するための視点について検討しました。また、今後、公園坂通りの整備に向けて地域住民との合意形成を進めていくうえで、具体的な検討の参考となるよう道路の画像イメージを作成しました。

なお、今回の調査検討に先立って、平成18年度に、沿道生活者を含めた様々な立場の市民スタッフによる公園坂通りの現況調査を実施しています。